

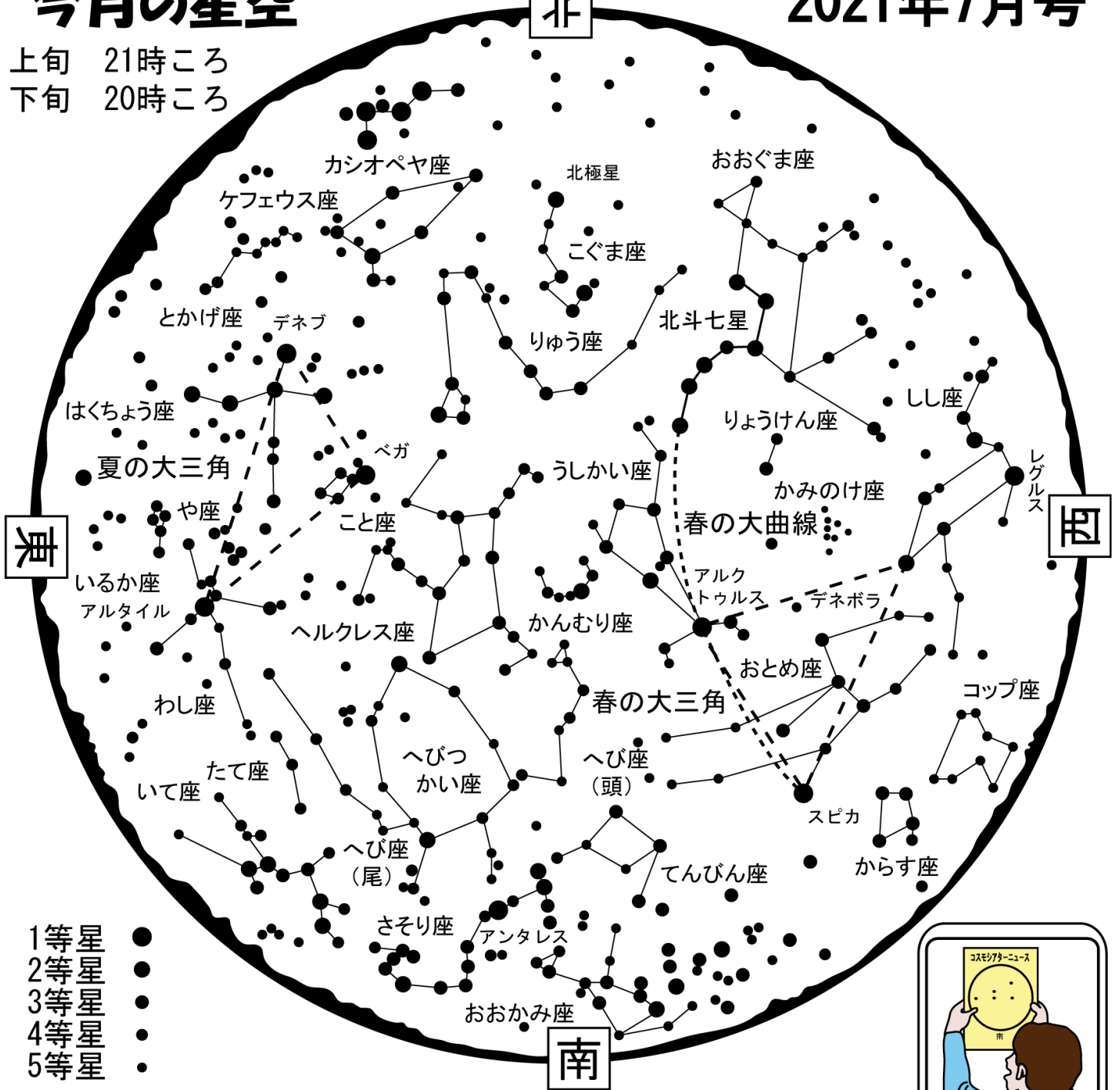
コスモシアターニュース

今月の星空

北

2021年7月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



冊

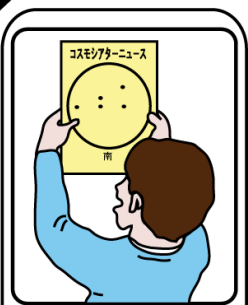
冊

南

- 1等星 ●●
- 2等星 ●●●
- 3等星 ●●●●
- 4等星 ●●●●●
- 5等星 ●●●●●●

今月の惑星

水星：中旬まで、明け方、東北東のたいへん低い空に見えます。明るさは-1~1等星です。
 金星：夕方、西北西の低い空に見えます。明るさは-4等星です。13日ころ火星と並んで輝きます。
 火星：夕方、西北西の低い空に見えます。明るさは1.5等星です。13日ころ金星と並んで輝きます。
 木星：真夜中ころ、南東の空に見えます。明るさは-2.5等星です。
 土星：真夜中前、南東の空に見えます。明るさは0.5等星です。



自分の向いている方向を下にして、見てください

今月の月の満ち欠け

下弦：2日(金) 新月：10日(土) 上弦：17日(土) 満月：24日(土) 下弦：31日(土)

7日(水)、七夕

7日(水)は、七夕です。七夕は、おりひめ星とひこぼしが、一年で一度会える日だ、という昔の話があります。この七夕の話ができたころは、今使っている暦(こよみ)ではなく、月の満ち欠けを基準にした暦・太陰暦(たいいんれき)でした。太陰暦は、旧暦(きゅうれき)とも言われます。今年の旧暦の七夕は、8月14日(土)です。

今の暦は、太陽の動きをもとにした太陽暦(たいようれき)と呼ばれるものです。この暦で行くと、7月7日はまだ梅雨の期間で、なかなか星を見ることすらできません。しかし、旧暦の七夕は、太陽暦の8月頃が多く、このころは夏本番でいい天気続きます。また、おりひめ星・ひこぼしともに空高く昇り、見やすくなっています。

右の図は、7日21時ころの七夕の星の位置です。ひこぼしが東の空低い所にあります。しかし、8月14日には、南の空高い所に移動しているのが分かります。

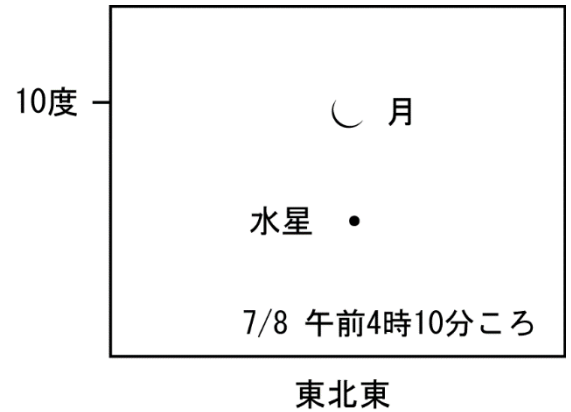
ところで、日本で呼ばれる七夕の星は、世界共通の別の名前を持っています。まず、おりひめは、「ベガ」と呼ばれ、こと座に輝く1等星です。ベガは、夏の星の中で一番明るく、真夏のダイヤモンドと呼ばれることもあります。そして、ひこぼしは、「アルタイル」と呼ばれ、わし座の1等星になります。



8日(木)、明け方、東北東の空で月と水星が並んで輝く

8日(木)の月の出は、午前3時半ころになり、三日月のように細い月となります。この月より少し遅れて昇ってくるのが水星です。水星の明るさは、0等星で、肉眼で見える明るさです。ただし、高さが低く、朝焼けが始まるころなので、双眼鏡を使って探すといいでしょう。

見やすいのは、午前4時~4時20分ころのわずかな時間です。見える方向は、東から少し北寄りの、東北東の空です。この方向に建物などが無い場所を探しておいてください。



12日(月)、西北西の空で、月と金星並んで輝く

空が暗くなり始める20時ころ、西北西の低い空に三日月が輝いています。この三日月のすぐ左下に輝くのが、金星です。高さが低いので見つけにくいかもしれませんが、天気恵まれれば簡単に見つかるはずですが、見晴らしがいい所がないと見えないので、西から北西方向の地平線付近に障害物がないところで観察してください。

なお、金星のすぐ左側に、火星が並んで輝いています。ただし、火星は金星ほど明るくはありません。20時ころは、空が明るいので、火星を見るには、20時30分ころがいいでしょう。

月と金星の接近は、12日限りですが、金星と火星の接近は、しばらく続きます。12日より前は、金星の左上に火星が輝きます。そして、13日以降

は、火星の高さが低くなり、金星の左下へ移動します。最も近くなるのは13日ころなので、前後数日おいて観察すると、金星と火星の接近を見ることができるとでしょう。ただ、火星が暗いので、5倍程度の双眼鏡を使うと、見やすくなります。

25日(日)、深夜の南東の空で、月と木星が並んで輝く

空が暗くなる25日(日)の21時ころ、ほぼまん丸の明るい月が南東の空に昇ってきます。同じころ、この月の左側に昇ってくる明るい星が木星です。木星は大変明るいので、月の輝きにも負けず、大変目につくでしょう。なお、前日の24日(土)は、20時ころに月が昇り、すぐ左上に土星が輝きます。ただし、土星は木星ほど明るくないので、注意深く探さないと分からないかもしれません。なお、見やすくなるのは、木星が高くなる、22時以降になります。

